

地域の元気創造プラン 「機能連携広域経営型」プロジェクトについて

地域の元気創造プラン PLAN

ミッション MISSION

<まちの元気で日本を幸せにする！>

ビジョン VISION

- 地域のモノやチエを活かす
- ヒトや投資を呼び込む
- 新しいくらしの土台を創る

アプローチ APPROACH

- 自治体が産業、大学、地域金融機関、地域住民等と連携して、活性化に取り組む
 - ・ 総務省内の連携
 - ・ 政府内各省庁との連携

プロジェクト 1 PROJECT 1

地域経済イノベーションサイクルの全国展開
⇒ 「業を起こす・雇用を創る」

プロジェクト 2 PROJECT 2

民間活力の土台となる
地域活性化インフラ・プロジェクト
⇒ 「新しいインフラで地域活性化を創る」

「地域の元気創造プラン」プロジェクト推進工程表

プロジェクト2 民間活力の土台となる地域活性化インフラ・プロジェクト 「イノベーションで地域活性化を起こす」

分散型エネルギーインフラ

- ・地域資源の徹底活用
- ・ICTを活用した需給調整(スマートシティ)
- ・エネルギーの地産地消の推進(太陽光、小水力、木質チップ等、余熱活用(コジェネ))
- ・地域への資金還元(FITの活用等)
- ・災害時の自主電源確保

公共クラウド

- ・行政データのクラウド化
- ・オープンデータの活用
- ・行政データの公開で民間活性化(公開型)
- ・行政データを活用したシステムで民間事業者支援(民間事業支援型)

機能連携広域経営型

- ・新たな計画圏域の設定
- ・最適な共通インフラの整備
- ・医療、雇用、教育等の行政サービスの高度化・効率化
- ・圏域内への民間資本の導入(民間による事業化、コミュニティビジネスの推進)

平成25年度

プロジェクト候補地調査

エネルギー賦存量、需要予測、初期投資、事業収支 等

先行モデルの構築

公開型:観光、防災
民間事業支援型:介護支援サービス、動産担保 等

プロジェクトモデルの調査・検討

市町村の枠を超えた圏域全体の高度化
民間投資のフル活用の検討 等

平成26年度

事業化に着手

- ・対象地域の選定
- ・マスタープラン策定
- ・プロジェクト推進組織の構築

本格システムの構築・稼働

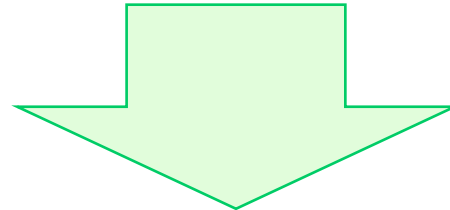
- ・公開型クラウドアプリケーション
～汎用的オープンデータ対応
- ・民間事業支援型
～一定の対象事業を選定のうえ先行構築

対象圏域の設定とプラン策定

- ・医療・雇用・教育等の分野において、人、モノ、金等の流れの強化のためのインフラを計画的整備

背景

「人口減少社会」と「少子高齢社会」の到来



「高流動性社会」への転換が必要

「高流動性」こそが「地域の元気」を創造

- ・ ひとの流れ
- ・ モノの流れ
- ・ お金の流れ
- ・ エネルギーの流れ
- ・ 情報の流れ



国土の均衡ある発展



個性を活かし自立した
「計画的圏域」City Regionの構築へ

多様な City Region の構築による「地域の元気」の創造

地方圏から三大都市圏への人口流出の歯止め
地方圏への人口流入の創出のみならず、
地域に暮らしつづけるための条件整備

機能連携広域経営型モデルとして
定住自立圏の強化

多様なCity Regionが個性を競い合うことにより、
「地域の元気」を創造

市町村の枠を超えた社会的ネットワークを
City Region (計画的圏域) として設定

- (1) 範囲の設定 (ひと、モノ、お金、エネルギー、情報の流れ)
- (2) 意思決定機構の設定 (産・学・金・官・民のラウンドテーブルの活用等)
- (3) サービスの担い手と役割分担の設定 (行政、民間企業、NPO、市民等)

スケジュール

平成25年度

- **プロジェクトモデルの調査・検討**
 - ・ **候補地に必要な要件の調査**
 - ・ **プロジェクトモデルの構築に向けた調査研究**

平成26年度

- **対象圏域の設定とプラン策定**
 - ・ **モデル地域の選定**
 - ・ **プロジェクト推進体制の構築とプランの策定**
 - ・ **人、モノ、金等の流れの強化のためのインフラの計画的整備**

(参考) 圏域の新たな価値創造をめざす社会基盤の枠組み



持続可能な居住のための「三種の神器」